

# ケロちゃん通信

2020年 12月 第66号



## ながおか医療生協 あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1 電話番号0258-36-5810  
http://www.nagaoka-iryouseikyoku.jp/

- ☆ 早いもので今年も師走を迎えます。1月のクルーズ船での新型コロナではじまり、医療面だけでなく経済面や日常生活にも大きな影響を残し、いまだ収束していません。来年は、今年の産み控えによる出生数の減少も予想されており、さらに厳しい1年になりそうです。小児では新型コロナの重症化はあまりみられず、高齢者や基礎疾患のある方への感染予防が主体になると思いますが、今後も感染予防に気を付け診療を行っていきたいと思います。
- ☆ インフルエンザワクチン接種も終盤に差しかかりました。インフルエンザワクチン対応の診療時間も12月で終了になり1月から通常通りの診療時間になりますので、よろしくお願ひします。1月より当院でも子宮頸がんワクチンの接種を開始予定にしています。
- ☆ 当院では新型コロナウイルスの抗原検査、PCR検査を行っておりません。ご希望の方は、新潟県新型コロナ受診・相談センター(025-256-8275)または長岡保健所(0258-33-4932)にご相談ください。
- ☆ スギ花粉症やダニによるアレルギー性鼻炎でお悩みの方は、当院でも舌下免疫療法を行っておりますのでご相談ください。スギ花粉症は、シーズンの始まる2-6月は新規に開始することはできませんので、希望する方は、1月中にお願いいたします。

12月の診療予定: 本間医師 4日午前・午後 11日午前

インフルエンザワクチン専用日(土曜午後) 12月19日

年末年始の予定: 12月30日-1月3日は休診とさせていただきます。1月4日より通常通り診療を開始します。

### 診療案内

- ・ 感染予防のため、発熱、かぜなどの急性疾患を主に診る一般外来と慢性疾患(感染性のない疾患や定期処方など)を診る慢性外来の診療時間を分けています。

時間	月	火	水	木	金	土
8:30	一般外来 (急性疾患)					
11:00	予防接種 (1歳以上)					10:30~ 11:30
12:00	慢性外来					11:30- 12:30 インフル専用
13:45	予防接種 健診 (1歳未満)					
15:00	予防接種 (1歳以上) 慢性外来					
16:00	一般外来 (急性疾患)	15:30- 16:30				
17:30		16:30- 17:30 インフル専用				

- ・ 午前 11:00-12:00、午後 13:45-16:00 は、一般診療はできませんので、ご協力お願いいたします。
- ・ 10-12月の3ヶ月は、火曜日 16:30-17:30、土曜日 11:30-12:30はインフルワクチン専用枠となりますのでお間違えのないようお願いいたします。
- ・ Web予約では、急性疾患は「一般外来」から、慢性疾患・定期処方等は「慢性外来」からご予約ください。
- ・ もちろん、急を要するような場合にはすぐにご連絡ください。詳しくはホームページのお知らせをご覧ください。

# 授乳中のお母さんのお薬について

- ・ 授乳中のお母さんがお薬を飲んでいる場合、母乳を飲んでいる赤ちゃんへの影響の心配はよくきかれます。お母さんが薬を飲んでいる場合は、アレルギーや精神疾患などの慢性疾患で長期に内服している場合と、風邪などの急性疾患で内服する場合があります。お母さんが内服したお薬は母乳へ移行しますが、母乳から児に吸収されるお薬の量は非常に少なく、児への影響は低いことが知られています。  
母乳栄養のメリットはもちろんですが、お母さんの症状の安定のためにも薬の内服をやめたり、母乳栄養をやめたりする必要は限られた場合を除いては通常ありません。
- ・ お母さんの内服した薬は腸で吸収され血液から作られる母乳へも移行します。その母乳を赤ちゃんが摂取し、腸で吸収され血液中に流れ、児へ作用します。赤ちゃんへの影響を考える場合RID(Relative Infant Dose)という指標があります。簡単にいうと、「母乳を介した児の薬の摂取量/児の治療量」で、これが10%以下は安全な薬といわれています。母乳から児が飲む薬の量が、児が治療の時に使う10%以下であれば安全だということです。母乳中の薬の濃度が測定されRIDが明らかになっているお薬のほとんどは5%以下で、安全であることが確認されています。しかし、実際に母乳中の薬の濃度が測定されていない薬も多く、データがないお薬の場合は、使用しないほうがよい場合もあります。
- ・ 多くの薬の添付文書には、授乳中の内服には注意が必要と記載されており、そのため授乳中は薬を処方しない、または母乳を禁止されるような場合もあると聞きます。  
正しい知識を持って対応することが大切です。ほとんどの薬は授乳中でも内服して大丈夫ですが、注意が必要なお薬も少数です。すべては、リスク(母乳を介した児への影響)とベネフィット(薬により母の症状の安定+母乳栄養のメリット)を考えて、決めることとなります。

- ・ 授乳中に内服しないほうがよいお薬は抗ガン剤、放射性ヨード剤などで、これらを内服中は母乳栄養は避けるべきです。注意が必要なお薬は、抗てんかん薬の一部、抗不整脈薬の一部、リチウム、ヨード製剤および母乳の分泌を抑えるプロモクリプチン、エルゴタミン、経口避妊薬などです。これらの薬を内服中の場合には主治医と相談が必要です。一般的なかぜ薬などではまず問題はありません。
  - ・ 不要な心配から母乳を控えることだけは避けなければなりません。ご心配な方は、ご相談ください。
  - ・ また下記HPでも詳しく情報がのっていますので、ご利用ください。
- 国立成育医療センター 妊娠と薬情報センター ママのためのお薬情報  
<https://www.ncchd.go.jp/kusuri/lactation/index.html>

